

## バルク乳検査にご協力ください

年2回（5～6月、11月）のバルク乳検査（細菌・牛ウイルス性下痢（BVD）ウイルス）を行います。採材と検査のご協力をお願いします。

バルク乳検査を行うことによって、農場の搾乳衛生を定期的に確認し、乳房炎や搾乳衛生の問題を早期に発見することができます。搾乳作業は乳房炎をコントロールする上で重要です。牛の泌乳生理に合った搾乳作業を行いましょう。

## 搾乳手順を確認しましょう

### Point 01 搾乳準備

搾乳に必要な資材をワゴンやカートに準備し、搾乳時は手袋をしましょう。

### Point 02 ストリップカップへの前搾り

泌乳に必要なオキシトシンの誘導と異常乳の確認をします。生乳中の乳房炎原因菌による環境汚染・感染拡大を防ぐため、前搾り乳を搾乳環境(牛床やバークリーナー)へ捨てないようにしましょう。

### Point 03 乳頭清拭

1頭1枚のタオルで乳頭を拭きます。乳頭の細菌数を減らし物理刺激により泌乳を促します。タオルの水分が多いと感染の原因になるので注意が必要です。

### Point 04 乳頭の乾燥

清拭後にペーパータオル等で水分を拭き取ります。乾燥により乳頭の細菌数をさらに減らす効果があります。

### Point 05 ティートカップの装着

オキシトシンの分泌を考慮して、搾乳刺激開始から約1分後に実施します。空気の流入は乳房炎の原因になるので注意が必要です。

### Point 06 ティートカップの離脱

オキシトシンの分泌を考慮して、搾乳は5分以内で終了します。マシンストリップングは乳頭の損傷や細菌感染のリスクを増加させるので実施しません。離脱は真空を十分に解除してから4本同時に行います。

### Point 07 ディッピング

乳頭の細菌定着・増殖を抑制します。ティートカップの離脱後直ちに実施し、しばらくは牛を横臥させないことが大切です。